



# テレマカシー

vol. 8  
2006.4.15 発行

テレマカシーとは? ▶ Terima kasih = インドネシア語で感謝を表す言葉。在宅で看取らせていただいたある方は海外旅行が大好きでした。その方が最期にご家族に残された素敵な言葉を使わせていただきました。

## 新里の春

クリニックのある新里(にっさと)は春を迎えました。  
新里街道を北上し、鞍掛(くらかけ)トンネルを越えると新・日光市。  
トンネル手前の道沿いに、ほう、と見とれてしまう庭があります。  
赤、白、黄色など色とりどりの花が咲く、金田家の庭園です。  
いつもご家族で心をこめて手入れされています。  
今年も、先代から引き継がれた木々から、花が咲きました。

ひばりクリニック 高橋 昭彦



## 電車の中で

その人は、静かに電車に乗ってきた。  
私はドアの横にある椅子に一人で座っていた。  
向かいや、ドアをへだてた向こうの席にも、まだ余裕があった。  
その人は座らないな、と思って斜め前を見た。  
白杖(はくじょう)を持った女性が、凜(りん)と立っていた。

その女性にはどの席が空いているか見えない。  
私は荷物を抱えて立ち上がり、声をかけた。  
と、向こうの椅子に座っていた男性も立ち上がっていた。  
ほとんど同時だった。

いや、一瞬早く彼の声が届いたようだ。  
女性は、彼の横に座った。  
電車は何事もなかったかのように発車した。

彼女の立ち姿に見とれた私は、遅れをとったようだ。  
障がいをもつ人に声をかけるとき、誰かと競うことはめったにない。  
ちょっと先を越されたけど、うれしい。

白杖(はくじょう):目の不自由な人がつかう白い杖



# 排除しない考え方

社会から孤立し、排除される人たち



## はじめに

お便りの中に「排除しない考え方」についてもっと知りたいという声がありました。今回は、社会から孤立し、排除されてしまう人たちについてお伝えします。

この通信「テレマカシー」では、人工呼吸器をつけた子ども、うつ、虐待、ドメスティック・バイオレンス、ホームレスなど、いろいろな話題を取り上げてきました。このような人たちが、その状態にいたる理由は、病気や障害、暴力、生活環境など、さまざまなものがあります。しかし、共通していることがいくつかあります。主なものをあげると、

- ・あまり知られていない
- ・社会的な救済制度が不十分である
- ・孤立しやすい
- ・社会から排除されやすい

などがあります。順にお話ししましょう。

## あまり知られていない

昭和58年、当時厚生省の役人だった炭谷茂さん(現・環境省事務次官)がロンドンを訪れたときのことでした。イギリスでは、児童虐待への取り組みが進んでいました。炭谷さんが、「日本には子どもの虐待はない」というと、イギリスの担当者はこう指摘したのです。

「日本にも、子どもの虐待は絶対にある。あなたに見えていないだけだ」と。

帰国した炭谷さんは、その言葉が気になって仕方ありませんでした。いろいろと調べると、確かに子どもの虐待があることが分かってきたのです。わが国の児童相談所で子どもの虐待についての統計が始まったのは、平成2年のことでした。以来、児童虐待の通告件数は年々増え続け、今では年間3万件を超えています。しかし、これはまだ実際に起こっている数よりも少ないと考えられています。

私たちの身近で起こっているのに、見えていないことがあります。

まず、炭谷さんも、指摘されて始めて、子どもの虐待が深刻な問題であることが見えてきました。関心を持ち、意識をしてはじめて見えてくる出来事は、虐待ではありません。

## 社会的な救済制度が不十分である

福祉の制度を使うには、まずどんな人にその制度を適用するのか、という対象者を限定するところからはじまります。しかし、まず制度ありき、になってしまうと、困っている人がいても、年齢や障害などの条件が合わずに対象にならない、つまりどの制度にも該当しない「制度の狭間」の場合がでてきてしまいます。

また、どういうわけか困りごとが集中する家庭があります。

- ・寝たきりのお年寄りを介護している家族に精神障がいをもつ人がいる
- ・生活保護の家庭にアルコール依存や薬物依存のある人がいる

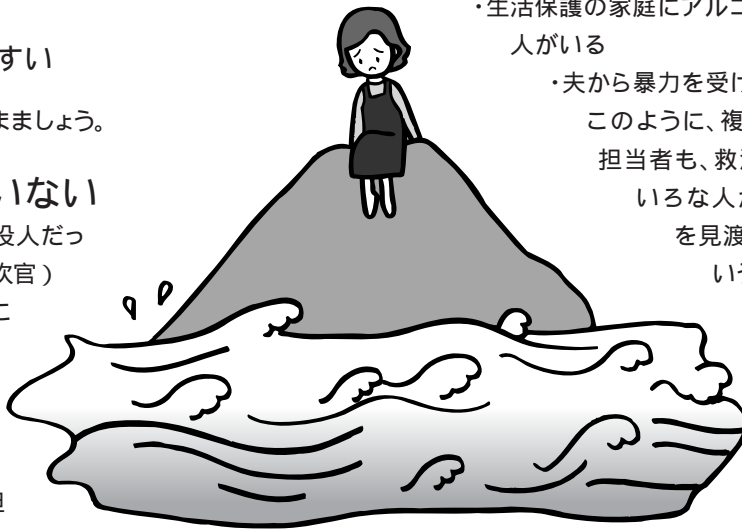
・夫から暴力を受けている妻が、子どもを虐待する

このように、複数の困りごとがあると、役所の担当者も、救済制度も複数となります。いろいろな人が個別に関わるけれども、全体を見渡して調整する人が存在しないということも少なくありません。

さらに、制度はあっても、実際には使えないことがあります。たとえば、人工呼吸器をつけたお子さんが知的障がいを併せもつ場合があります。彼らは、知的障がいのある子どもが使えるサービスを使おうと希望しても、「身体障がいがあると対応できません」と断られます。身体障がいのサービスを希望しても、「医療的ケアが必要な子どもは受けられません」といわれます。医療的ケアが可能な病院では、預かりやお世話を目的とした「社会的入院」はできません。結局、どこも利用できないこととなります。

## 孤立しやすい

社会の中で、少数派の声はなかなか届きません。少ないがゆえに、まわりに彼らのことを知っている人もほとんどいません。少数派であっても声を出せる人たちは、まだ自己主張ができて



す。しかし、虐待を受けている子どもの中には、言葉を話せない幼い子どもや、脅されて暴力によってコントロールされている子どもがいます。このような子どもは、誰にも虐待を受けていることを伝えることができません。電話をかけることも難しい知的障がい者、セールスマンの標的となる認知症のお年寄り。彼らは、自分のおかれている状態を人に伝えることが上手にできません。

SOSを出すことができないと、人は孤立していきます。

## 社会から排除されやすい

社会の中に出て行くことはできても、まわりから白い目でみられる人がいます。わが国では、髪の色や、肌や目の色の違い、国籍や文化の違い、日本語が話せない、生まれた場所が違うなどの理由で差別を受ける人がいます。たとえば、中国残留日本人孤児は、日本に帰って来た当初は歓迎されますが、日本での生活が始まって、日本語によるコミュニケーションや普段の習慣がわかりません。そのため、ゴミの出し方、料理の作り方、近所づきあいなど、ささいなことからすれ違いがでてきます。やがて近所から排除される存在となることもあります。

また、アルコール依存、薬物依存、刑務所で刑を終えて出てきた人、街頭で暮らすホームレスたちは、その事実だけで偏見をもたれ、避けられます。「彼らが悪い、自業自得だ」という意見があります。しかし、その事実の背後にはいろいろな原因があるはず。なんとかして、もう一度人生をやりなおそうという人に、排除する社会の風当たりはつらいものです。

## おわりに

排除しない考え方に会い、自分がこれまでに感じてきた疑問や課題を解決できる力を感じています。この問題は簡単なものではありませんが、まずは、社会から孤立し、排除される人たちに関心をもつことが理解の第一歩です。きっと、見えてくるものがあるでしょう。

今回お伝えしたことは、日本ソーシャル・インクルージョン研究会(炭谷茂代表)、診療、市民活動などを通じて学んだことをもとに、自分なりにまとめてみたものです。また勉強してから、続編をお伝えします。ご意見お待ちしております。

### 「排除しない考え方」

ホームレスや虐待、アルコール依存など、既存の制度では救済が難しい人は、社会から排除されてしまいがちになる。引きこもりや不登校、自殺者など社会から孤立してしまう人も増えている。こうした人々を排除しないで、地域の中で一緒にやっていく(=inclusion)ことをソーシャル・インクルージョンという。イギリスやフランスでは福祉施策の根幹となっている考え方である。その施策によって支援を受けていた人が、元気づけられて、人に支援の手を差し伸べるといふ。

啓蟄も過ぎた3月8日、春の畑が始まりました。

この冬の寒さは格別で、5cmにもなる霜柱が何度も立ちました。その上をそっと歩くと、ザクツという音とともに体が沈みます。2月になると、土の表面はやわらかくなりましたが、少し掘るとその下は凍土。3月に入り、ようやく耕せるようになりました。

半年ぶりに耕運機を出しエンジンをかけます。

越冬した畑はずいぶん硬くなっています。

土が硬いと耕運機は跳ねてしまうので、両手で抑えながら深くゆっくりと耕します。根野菜もつくるので、しっかりと耕しておかねばなりません。

耕運機を使って初めてわかったことがあります。

まっすぐ耕しているつもりでも、そうはいかないということです。一列耕して、Uターンして次の列を耕そうと進みますが、振り返ると、あれあれ、すでに耕しているほうに流れてしまうのです。耕運機の両輪にはエンジンから同じだけの力がかけられます。硬い土をかくほうが前に進む力が生まれますから、やわらかいほうに流れてしまうのです。

一度だけでは、まんべんなく耕せません。

縦に耕し、横に耕し、そして、もう一度縦に進む頃には、土はやわらかくなり、やっとまっすぐ進むようになりました。硬い土も、三度耕せば、しっかりとなじみます。

耕したあとの土は、黒々として、なんとも言えぬいい匂いがします。土をひっくり返し、空気を入れると、畑も息を吹き返すのです。さあ、「今年もよろしくお願いします」と畑に手を合わせました。

土と太陽と水は自然の恵みです。

畑の師匠や、そっと草取りをしてくださる方々、種や苗や肥料などをもってくださる方々に感謝。いろいろな方にお世話になっているひばり畑です。

外来診療や在宅医療は次第に忙しくなってきました。去年よりも少しは慣れましたが、時間がとれますかどうか。

ひばり畑の2年生。新シーズンが始まりました。



ひばり畑より  
今年も畑がはじまりました



## はじめてつくった「ほうれん草」です。

**ほ**うれん草の旬は、春。秋に種をまいて、間引きして冬を迎えます。厳しい寒さで、株の七割ほどが枯れました。生き残った株の根は長く、しっかりしています。お彼岸を過ぎてから、ぐんぐん大きくなりました。



根ごと収穫しますと、これがなかなか立派な根っこです。この太い根から水と養分を吸い、懸命に広げた葉で太陽の光を受けて、お前は大きくなったんやなあ。

なべにお湯を沸かします。ビタミンが壊れるので、ゆで過ぎは禁物。捨てるのがもったいないから根っこもいれました。最初は何もつけずにいただきます。

ん、根っこも意外とやわらかい。葉も根っこも、ほのかな甘みがあります。畑でつくったからなのか、新鮮だからなのか、とにかくおいしい「ほうれん草」です。包装も袋もないので地球にもやさしい。ポパイになった気分です、ごちそうさま。

### \*ほうれん草メモ

原産地はペルシャ(ほうれんは、中国語でペルシャのこと)。ビタミンAが豊富。鉄分の吸収を増やすので、貧血にはとてもよろしい。シュウ酸を含むので結石のある人は、生食はさげましょう。

## 心療内科を始めます

(完全予約制)

この春より、小児科・内科に加えて、「心療内科」の標榜を開始しました。不登校、ひきこもり、心の傷から抜け出せない、などでお悩みの方と一緒に「これから」を考えるお手伝いをしていきたいと思ひます。心療内科はお話を伺うことから始まります。外来診療時間で対応は難しいので、「完全予約制」とさせていただきます。外来や在宅医療の合間に時間を確保いたしますので、こちらの指定の時間に予約をお願いしますし、急な往診の際には大変申し訳ないのですがお待たせすることもあります。あらかじめご承知おきください。

なお、統合失調症や重度のうつ病など精神科の治療が必要な方は、精神科専門医の受診をお勧めいたします。

## わっどわ〜く

### たんの吸引の勉強会

共催：バクバクの会(人工呼吸器をつけた子の親の会) 栃木支部  
栃木医療的ケアを考える会

日時：平成18年 5月 7日(日)  
午後1時30分～午後4時まで

場所：県南健康福祉センター(栃木県小山市犬塚3-1-1)

内容：吸引は誰でもできるの?(吸引解禁の背景と今後の展望)

・栃木県保健福祉部障害福祉課 担当者

吸引とは?(呼吸のしくみ、気管切開と吸引などの医学講義)

・ひばりクリニック院長 高橋昭彦

吸引技術を学ぼう(吸引の手順や注意点の説明)

・自治医科大学看護学部 朝野春美さん

吸引の実技実習

・グループ別にモデルを使って実習

対象者：地域でたんの吸引に必要な子どもにかかわっている方・関心のある方  
(看護職・ヘルパー・学校関係者・保育関係者・ボランティアなど)

会費：一般の方 一名につき ¥1000

定員：100名

問い合わせ先：バクバクの会栃木支部 TEL.028-665-0932

(代表：瓦井さんまで) \*テレマカシーで知ったとお伝えください

気管切開をしている子どもを持つ家族が、家庭で行っている日常生活に必要な行為(医療的ケア)であるたんの吸引の勉強会を開催します。日頃子どもに暖かく接して下さっている皆さんに参加して頂き、子どもたちやケアについて、より理解してもらえると有難いと思っております。親たちが主催の手作り勉強会ですが、開催にあたっては会を支えて下さっている医療スタッフ・県の地域福祉担当の皆さんが、快く協力して下さいました。たくさんの皆さんの参加をお待ちしております。

## テレマカシーのサポーターのご紹介

第7号から金子英紀さんが宛名書きなどの発送ボランティアをして下さっています。すでにサポーターの金子敏子に続き、ご夫婦でのデビューです。金子さんお世話になります。また、切手をお送りいただきました皆さん、ありがとうございました。

## 「ひばりクリニック」のご案内

### 診療時間

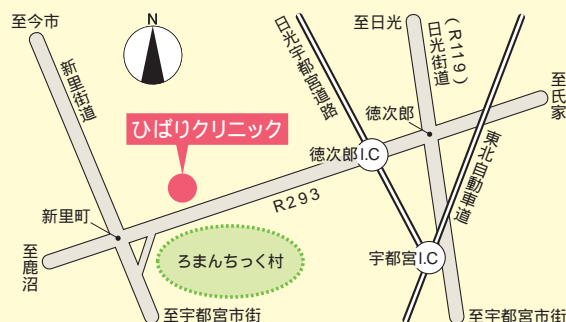
時間	日	月	火	水	木	金	土
9:00 ~ 12:00	(休)			(休)		訪問診療	
午後 (在宅医療)	(診)	訪問	訪問	(診)	訪問	訪問診療	訪問

### ひばりクリニックの運営理念

- 1) 在宅で過ごされるご利用者に出前の医療を提供すること
- 2) 子どもからお年寄りまで診る家庭医の機能を提供すること
- 3) 障害児・者やお年寄りの生活を支える市民活動を支援すること

この通信は、子どもから大人まで、障害のある人もない人もどんな人も社会から排除されることなく、地域と一緒に生きていける世の中を目指して、ひばりクリニックが企画・編集しております。この通信についてのご意見・ご感想はひばりクリニックまでお寄せください。

栃木県宇都宮市の北西部、新里町(にっさとまち)にある、ログハウス風の小さな診療所です。



〒321-2118 栃木県宇都宮市新里町丙357-14

TEL 028-665-8890 FAX 028-665-8899

E-mail [hibari-clinic-01@theia.ocn.ne.jp](mailto:hibari-clinic-01@theia.ocn.ne.jp)